

えひめの歴史文化モノ語り

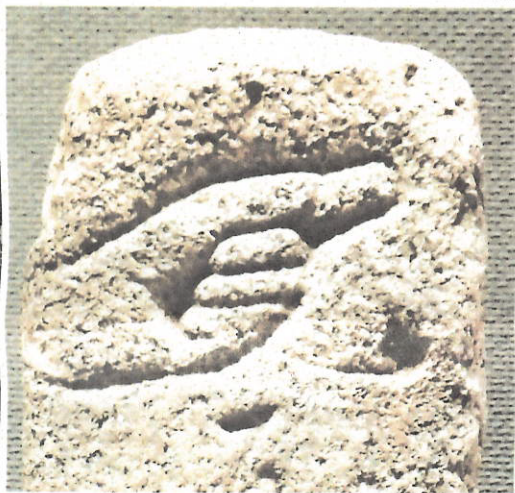
県歴博収蔵資料から ⑬

本資料は江戸時代前期に真念が建てた遍路道標石で、四国八十八カ所霊場の第62番札所宝寿寺(西条市)の境内に保存され、当館に寄託されたものである。

伊豆ブツク「四国辺路(へ

真念の遍路道標石

江戸時代 200基余り建立



真念の遍路道標石(左は拡大図)。「左」の文字が指印に改刻されている

＝県歴史文化博物館蔵

んろ)道指南(みちしるべ)「ち願主 真念」とある。を1687(貞享4)年に刊行、遍路の休憩・宿泊所として真念庵の開設、迷いやすい遍路道の分岐点に遍路道標石(真念標石)を200基余り建てたなど、江戸時代前期における四国遍路の普及に多大な貢献をした。

真念道標石の一般的な特徴としては形状が角すい形で、後世の道標石に比較すると小ぶりなことがあげられる。案内表示は道標石の

正面上部に分かれ道の方向「左・右」を示し、中央に「遍ん路みち」下部に「願主真念」と刻まれているものが多い。左側面は「為父母六親」その下に道標石を設置するために資金等を寄進した施主の在所と名前を記す。六親(ろくしん・りくしん)とは最も身近な親族や親族全体をさす。右側面には「ユ(梵字)ぼんじ」南無大師遍照金剛」と刻まれ、弘法大師をたたえている。

本資料の場合、花崗(こう)岩製の角すい形で幅15センチ、奥行15.5センチ、高さ83.5センチを測る。碑文の内容を見ると、正面に「(右方向を指した指印) 遍ん路み

真念の遍路道標石は、民俗展示室3「四国遍路」で常設展示中。

(専門学芸員・今村賢司)



△随時掲載します▽